

Ⅳ-108 都市公園の利用実態について

九州大学 正 員○天本 徳浩
九州大学 正 員 樗木 武
九州大学 学生員 鈴木 常夫

1. はじめに 国民の余暇時間の増加や内需拡大等の対策のため、総合保養地域整備法が制定され長期滞在型リゾート施設は急速に整備が進められている。一方、日常的な余暇施設としての都市公園の整備は、2000㎡以上の宅地開発時に3%の面積の公園を整備することが義務づけられているにすぎない。しかも、宅地開発後、整備される公園はほとんどないといってよい状況である。都市空間、あるいは都市生活をゆとりあるものとするためにも、都市公園の整備充実は必要不可欠のものであり、より推進すべきものである。しかし、資金等の制約が大きいのも周知の通りである。これらの事由により効率よく公園を整備していくには、なにを考慮すればよいかを明確にする必要がある。その手始めに、本研究では意識調査を行ない、その結果を分析し都市公園がどのように利用されているかその実態を把握することを目的とする。なお、調査の対象は地方都市の一例として久留米市(福岡県、人口22万人)を取り上げた。

2. 意識調査の概要 公園の利用状況を把握するデータを得るため、久留米市において、昭和63年7月に調査を行なった。方法は、市域を小学校区(27ゾーン)に分割し、各ゾーンの世帯数により配布数を調整した。訪問留置-訪問回収として、配布数2250、回収数1476を得た。回収率は 65.6%であった。調査項目は、大きく分けると4項目で個人属性、よく利用する公園名、公園利用形態、公園に対する意識である。この他に、居住環境、公園属性が公園の利用状況に関する要因と考えられる。今回の分析はこの中から、個人属性、公園利用形態、公園属性に的をしぼり分析を行う。各項目の詳細については表-1のとおりである。

3. 変数間の関連性の評価
変数間の関係を見るため、カテゴリ変数間の場

表-1 公園利用状況に関する項目

個人属性 (カテゴリ変数)	・年齢 1. 0-9歳 2. 10-19歳 ... 7. 60-69歳 8. 70-79歳 9. 80歳-
	・性別 1. 男 2. 女
	・職業 1. 会社員 2. 主婦 3. 学生 4. 自営業 5. 無職 6. その他
利用形態 (カテゴリ変数)	・利用頻度 1. ほとんど利用しない 2. 年に2-3回 3. 月に2-3回 4. 週に2-3回 5. ほとんど毎日
	・利用目的 1. スポーツ・運動 2. 散歩 3. 遊び場として 4. その他
	・交通手段 1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. バス 6. その他
公園属性 量的変数	・面積 (ha) ・利用者からの距離 (km)

合はクロス集計を行ない、カテゴリ変数と量的変数間の場合はカテゴリ別の量的変数の平均、中央値、第1四分位点値、第3四分位点値のばらつきをグラフ化した。紙面の都合上、特に従属性が強いもののみを示す。また、個人属性間のクロス集計は公園利用に関して意味が無いため提示していない。2つのカテゴリ変数が独立であるという帰無仮説を検定するため χ^2 検定を行なった。結果は職業と利用頻度以外はすべて1.0%未満の危険率で棄却された。クロス表間の比較には χ^2 値を自由度で除した値を用いた。その結果を表-2に示す。次に量的変数とカテゴリ変数の従属性の強さは、カテゴリごとの平均、中央値を求め、それらのカテゴリ間の変動係数により比較した。結果を表-3に示す。表-2、3により特に従属関係が強く現われていたものとして、クロス表は、基準値が5以上のものを示す。また、量的変数とカテゴリ変数間の場合は、平均と中央値の変動係数がともに0.5以上のものを取り上げる。ここで、面積と距離については各カテゴリ変数においての変動係数の値の大小関係が同様になっているため、この関連について検討する。

この場合、量的変数とカテゴリ変数間を同様に表現するため、面積をカテゴリ化して図-1のようにした。公園面積の各カテ

表-2 クロス表の選択基準値

		A χ^2 値	B 自由 度	A - B
年齢	利用頻度	50.3	24	2.1
	利用目的	124.9	24	5.2
	交通手段	94.1	40	2.4
性別	利用頻度	11.9	3	4.0
	利用目的	26.1	3	8.7
	交通手段	18.8	5	3.8
職業	利用頻度	21.4	15	1.4
	利用目的	51.1	15	3.4
	交通手段	98.2	25	3.9
利用頻度	利用目的	28.6	9	3.2
利用頻度	交通手段	135.1	15	9.0
利用目的	交通手段	47.5	15	3.2

表-3 量的変数のカテゴリ間の変動係数

		平均	中央値
面積	利用頻度	0.60	0.82
	利用目的	0.23	0.54
	交通手段	0.72	1.19
距離	利用頻度	0.69	0.85
	利用目的	0.14	0.19
	交通手段	0.50	0.60

グリごとの度数を示すと表-4 のようになる。これより、面積が大きい公園を利用するには、公園の個数の関係上どうしても遠くへ行かなければならないことがわかる。公園面積と公園までの距離の間にはこのような関係があるため公園属性の代表として面積についての図だけを示す。結局、変数間の関係の図表として、年齢と利用目的(表-5)、性別と利用目的(表-6)、利用頻度と交通手段(表-7)、利用頻度と公園面積(図-2)、交通手段と公園面積(図-3)を示し次節において考察を行なう。

4. 結果と考察 表-5 について、公園をスポーツや運動の場として利用する割合が高いのは、10歳未満、10代、60代、70代である。70代の方は特にゲートボールをする人の割合が高い。また、散歩をするのは40代以上の人の割合が高く、遊び場として利用するのは10歳未満、20代、30代の人割合が高い。20代、30代の人割合が高いのは自分の子供の遊び場として一緒に出かけるからであろう。次に、表-6 についてみると男性はスポーツや運動としての利用割合が高く、女性は遊び場としての利用割合が高いことを示している。これは表-5 と合わせて考えると、女性の方が子供を連れて公園に行く割合が高いためと思われる。表-7 からは、利用頻度が高いほど徒歩で行く割合が高くなっている。また、バイク、自動車、バスを利用して行くのはほとんどが年2-3回の利用頻度のときに集中している。図-2 については、利用頻度が高いほど面積の小さい公園を利用しており、図-1 と合わせて考えると利用頻度が高い場合は近くの公園を利用していることがわかる。図-3 についても、徒歩、自転車、その他の交通手段の順

を考慮すればよいかについて述べる。ある程度面積が大きい公園は、駐車施設の確保など、アクセス交通についての対応を考慮する必要がある。年齢・性別により公園の利用目的に違いがあり、このことを考慮した上での公園整備のあり方が検討されるべきだろう。今後はさらに利用者の公園に対する意識、居住環境

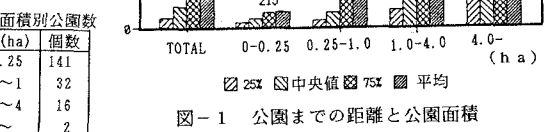


図-1 公園までの距離と公園面積

表-4 面積別公園数

面積(ha)	個数
0~0.25	141
0.25~1	32
1~4	16
4~	2

表-5 年齢と利用目的

年齢	計	0-	10-	20-	30-	40-	50-	60-	70-	80-
利用目的	575	10	71	56	208	92	62	49	26	1
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
スポーツ	86	3*	17*	3	26	17*	6	8*	6*	0
運動	15%	30%	24%	5%	13%	19%	10%	16%	23%	0%
散歩	168	0	16	14	31	36*	40*	19*	11*	1*
計	29%	0%	23%	25%	15%	39%	65%	39%	42%	100%
遊び場として	283	7*	30	35*	145*	33	13	14	6	0
計	49%	70%	42%	63%	70%	36%	21%	29%	23%	0%
その他	38	0	8*	4*	6	6*	3	8*	3*	0
計	7%	0%	11%	7%	3%	7%	5%	16%	12%	0%

*全体と比較してその割合が高いもの

表-6 性別と利用目的

性別	男	女
利用目的	580	262
計	100%	100%
スポーツ	87	59*
計	15%	23%
散歩	168	79*
計	29%	30%
遊び場	287	113
計	50%	43%
その他	38	11
計	7%	4%

*全体と比較してその割合が高いもの

表-7 利用頻度と交通手段

交通手段	計	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス	その他
利用	632	360	114	5	126	24	3
頻度計	100%	57%	18%	1%	20%	4%	1%
年	269	99	50*	4*	93*	21*	2*
2-3回	100%	37%	19%	2%	35%	28%	1%
月	204	125*	46*	1*	30	2	0
2-3回	100%	61%	23%	1%	15%	1%	0%
週	95	76*	14	0	3	1	1*
2-3回	100%	80%	15%	0%	3%	1%	1%
毎日	64	60*	4	0	0	0	0
計	100%	94%	6%	0%	0%	0%	0%

*全体と比較してその割合が高いもの

その他の交通手段の順で公園の面積が大きくなっている。これも図-1 との関係から距離が遠いほど高度な交通手段を利用する傾向であることがわかる。以上のことを踏まえた上で、公園を整備するにあたりどのようなこと

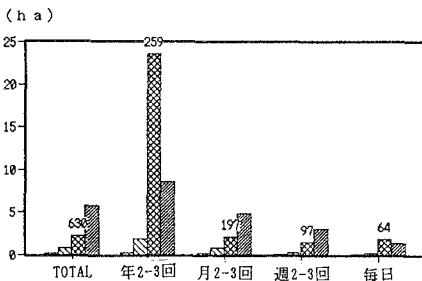


図-2 公園面積と利用頻度

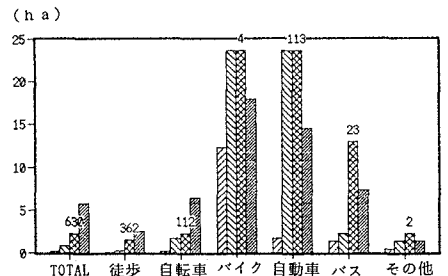


図-3 公園面積と交通手段